

## 「国立台湾大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学文学研究科修士二回年 内池 文香

## ①学習成果

昨年の12月にHSK(新漢語水平考試)5級の資格を取得したが、リスニングの部分で不満の残る結果となり、今回の派遣に参加することにより、自分のリスニング能力を向上させることが当初の目標であった。結果から述べると、リスニングの力の向上は著しく、街頭で現地の方々が通常のスピードで話している場合でも、ある程度までは聞き取ることが出来るようになった。日常生活を仮に台湾で送る機会があったとしても、恐らくあまり困難はないと想定されるレベルまで、自身のリスニング能力を向上させることが出来た。

又スピーキング能力についても、自分の考えを過不足無く伝える術を、ある程度習得できたとの実感を持っている。来年度からは民間企業での就労を予定しており、同僚の3分の1程度が中国人或いは中国語話者なので、彼らとの円滑なコミュニケーションが出来る事を期待している。9月にはHSK6級の取得を予定しているため、今回の派遣への参加経験は十分に活かせると思う。

## ②海外での経験

家庭での食事が一般的な日本と異なり、台湾では外食文化が広く根付いている。その要因の一つとして、外食の方がコストを抑えられるという点が挙げられる。又外食店の種類も多く、一般的な台湾料理の店に留まらず、中国料理を味わうことが出来る店や、小吃と呼ばれる軽食に近い料理を味わうことの出来る店など、バリエーションが豊富である。日本料理の中ではラーメンが広く受容されており、街頭で見かけることもしばしばあった。しかし味付けに関しては、日本のそれよりやや甘く、台湾人の味覚の影響を受けているように思えた。三食全て外食の日が大半だったので、台湾の料理にすっかりなじんでしまった。果物については日本のものより遙かに安価で美味しく、台湾の温暖な気候の恩恵を存分に受けることが出来た。

## ③プログラム内容

授業中に発言を促されることの多い語学の授業や、台湾の文化に触れることの出来るdaytripなど、多彩な企画があり刺激的であった。授業に関して言えば、より多く中国語を話すことに重点が置かれ、同時に他者の中国語を聞く機会も多く、すこぶる勉強になった。個人的には、中国人と台湾人の相互意識について、プログラム参加者から話を聞く機会があり、とても興味深かった。

## ④進路への影響

派遣への参加が決定したときには既に就職が決定していたので、進路への大きな影響はなかった。同僚に外国人もいて国際理解が不可欠な職場なので、今回の派遣への参加経験が生きることを期待している。